

朝日新聞

本紙定価... 発行所...



帝國南方に監視の眼

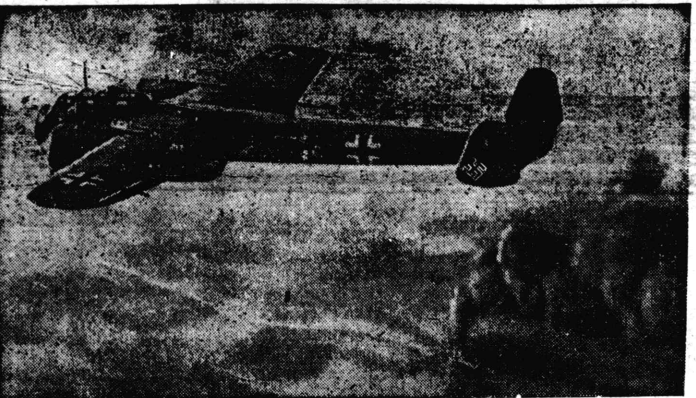
佛印を干犯蠢動せば 容赦なくこれを膺懲

英米ソ蔣結託に重大決意



【東京廿三日電】英米ソ蔣結託に重大決意... 佛印を干犯蠢動せば...

【東京廿三日電】米國および重慶側の佛印侵略の噂に對し日本が今や何らかの...



獨逸軍機の活躍

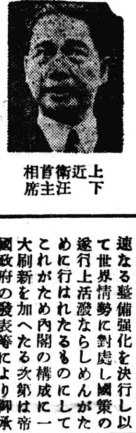
【ベルリン廿二日電】廿一日夜から廿二日にかけて...

颯爽亂舞する獨鷲 凄絶 赤都火焰の海

目白押しに並んだが軍の機銃掃射、急降下機は後から後から無数に空を...

日華關係は鐵則不離 新東亞建設へ邁進

【東京廿三日電】近衛總理東亞新秩序の建設に邁進すべ...

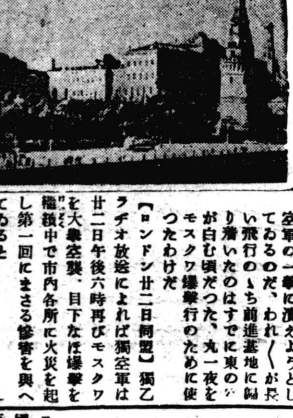


【東京廿三日電】近衛總理東亞新秩序の建設に邁進すべ...

【ワシントン廿二日電】ルーズベルト大統領は廿二日の記者会見...

【東京廿三日電】文部省のこの組織の確立は、世間の注目を...

【ワシントン廿二日電】ルーズベルト大統領は廿二日の記者会見...



ボルネオ島の木造が獨逸軍機の襲撃を受ける

【ワシントン廿二日電】ボルネオ島の木造が獨逸軍機の襲撃を受ける...

【東京廿三日電】重要案件を審議... 足止め要望...

【東京廿三日電】重要案件を審議... 足止め要望...

【ワシントン廿二日電】ルーズベルト大統領は廿二日の記者会見...

【ワシントン廿二日電】ルーズベルト大統領は廿二日の記者会見...

【ワシントン廿二日電】ルーズベルト大統領は廿二日の記者会見...

【ワシントン廿二日電】ルーズベルト大統領は廿二日の記者会見...

【ワシントン廿二日電】ルーズベルト大統領は廿二日の記者会見...

【ワシントン廿二日電】ルーズベルト大統領は廿二日の記者会見...

【ワシントン廿二日電】ルーズベルト大統領は廿二日の記者会見...

【ワシントン廿二日電】ルーズベルト大統領は廿二日の記者会見...

【ワシントン廿二日電】ルーズベルト大統領は廿二日の記者会見...

伯國大統領の來訪に

パラガイ舉げて熱狂

新聞の讚辭 革新と新秩序の遂行者



【リオデジャネイロ廿三日電】パラガイ大統領の來訪に、リオデジャネイロ市民は熱狂を呈した。新聞は、この來訪を、革新と新秩序の遂行者の來訪として、高く稱へた。新聞は、この來訪を、革新と新秩序の遂行者の來訪として、高く稱へた。新聞は、この來訪を、革新と新秩序の遂行者の來訪として、高く稱へた。

政府の指導下に

滿洲炭業も統制

【東京廿三日電】滿洲炭業の統制が、政府の指導下に進行中である。政府は、滿洲炭業の統制を、政府の指導下に進行中である。政府は、滿洲炭業の統制を、政府の指導下に進行中である。政府は、滿洲炭業の統制を、政府の指導下に進行中である。

全國商船を

統制管理

【東京廿三日電】全國商船の統制管理が、政府の指導下に進行中である。政府は、全國商船の統制管理を、政府の指導下に進行中である。政府は、全國商船の統制管理を、政府の指導下に進行中である。政府は、全國商船の統制管理を、政府の指導下に進行中である。

南進政策へ巨歩

日佛印協定成立

皇軍、軍事基地を占據

【ワシントン廿三日電】至急報、日本大使館發表によれば、日佛印協定が成立した。皇軍、軍事基地を占據した。日佛印協定が成立した。皇軍、軍事基地を占據した。日佛印協定が成立した。皇軍、軍事基地を占據した。

甜菜の作付順調

天候がよければ三割増 産糖高五五万ビクトル

【東京廿三日電】甜菜の作付が順調である。天候がよければ、産糖量は三割増となる。産糖量は五五万ビクトルに達する。甜菜の作付が順調である。天候がよければ、産糖量は三割増となる。産糖量は五五万ビクトルに達する。

四万トン没収却下

【東京廿三日電】四万トンの没収物が却下された。没収物は四万トンに達した。没収物は四万トンに達した。没収物は四万トンに達した。没収物は四万トンに達した。

颶風

【東京廿三日電】颶風が各地を襲った。颶風は各地を襲った。颶風は各地を襲った。颶風は各地を襲った。颶風は各地を襲った。

Advertisement for Elixir Noqueira, a medicinal product. Includes text: "Elixir Noqueira Grande Depurativa de Sangue" and "梅毒妙薬".

貸問

小兒科 長谷川知宏 醫師
坂元なを 産婆
金儲かる仕事

Advertisement for Casa de Saude, a medical clinic. Includes text: "CASA DE SAUDE Dr. Danoluzzi Pres. Prudente".

Advertisement for a youth sports event. Includes text: "第一回汎巴延長線 青少年相撲大會".

Advertisement for a book or publication. Includes text: "張木宇一 借財二十コントス".

Advertisement for a book or publication. Includes text: "張木宇一 借財十九コントス".

Advertisement for R. Monteiro & Co. Includes text: "R. Monteiro & Co. CASA MATRIZ E ESCRITORIO Rua 25 de Março, 533".

Advertisement for a food product. Includes text: "時代の要求に適した 醬油の素".

Advertisement for a book or publication. Includes text: "張木宇一 借財二十コントス".

Advertisement for Columbia records. Includes text: "素晴らしい賣行! コロムビア レコード 七月新譜".



伸びる建設線

ポリビヤ ルジラブ

ポリビヤ市長の報告によると、同市の建設事業は、一九四四年末には完成する。これは、ポリビヤ市の建設事業が、一九四四年末には完成する。これは、ポリビヤ市の建設事業が、一九四四年末には完成する。これは、ポリビヤ市の建設事業が、一九四四年末には完成する。

白球道場

地元チエテ軍合宿開始

晴れの日は待たず、白球道場に備へ。地元チエテ軍合宿開始。晴れの日は待たず、白球道場に備へ。地元チエテ軍合宿開始。晴れの日は待たず、白球道場に備へ。地元チエテ軍合宿開始。

お化粧代十二万コント

磨きかけるサンパウロ市

お化粧代十二万コント。磨きかけるサンパウロ市。お化粧代十二万コント。磨きかけるサンパウロ市。お化粧代十二万コント。磨きかけるサンパウロ市。

求炊事婦

子持にても可

求炊事婦。子持にても可。求炊事婦。子持にても可。求炊事婦。子持にても可。

募集

見習（十六、七、二名）

募集。見習（十六、七、二名）。募集。見習（十六、七、二名）。募集。見習（十六、七、二名）。

貸シヤカラ

イタチ一坪一三三平方米

貸シヤカラ。イタチ一坪一三三平方米。貸シヤカラ。イタチ一坪一三三平方米。

農事通事

数字が示す危険信號

邦人棉作者へ少々痛い警告

農事通事。数字が示す危険信號。邦人棉作者へ少々痛い警告。農事通事。数字が示す危険信號。邦人棉作者へ少々痛い警告。

北島文字女史

に聴く

北島文字女史。に聴く。北島文字女史。に聴く。北島文字女史。に聴く。

天井知らずのお米

品不足もさることながら

奸商の賣惜みも困りもの

天井知らずのお米。品不足もさることながら。奸商の賣惜みも困りもの。天井知らずのお米。品不足もさることながら。奸商の賣惜みも困りもの。

サンパウロの昔の面影

（4）

サンパウロの昔の面影。サンパウロの昔の面影。サンパウロの昔の面影。

母國留學の所感

西江護の歸伯報告

母國留學の所感。西江護の歸伯報告。母國留學の所感。西江護の歸伯報告。

木炭の蘭

木炭の蘭

木炭の蘭。木炭の蘭。木炭の蘭。

賣ベソソ

政府許認可済のベソソ

賣ベソソ。政府許認可済のベソソ。賣ベソソ。政府許認可済のベソソ。

坂本秀雄君

家庭常備薬箱

坂本秀雄君。家庭常備薬箱。坂本秀雄君。家庭常備薬箱。

富美の家

料亭

富美の家。料亭。富美の家。料亭。

家庭薬箱配布再開

家庭薬箱配布再開。家庭薬箱配布再開。家庭薬箱配布再開。

一箱代價 四拾ミル

一箱代價 四拾ミル。一箱代價 四拾ミル。一箱代價 四拾ミル。

在伯日本人同仁會

DOJINKAI

在伯日本人同仁會。DOJINKAI。在伯日本人同仁會。DOJINKAI。

日伯合衆銀行

日伯合衆銀行。日伯合衆銀行。日伯合衆銀行。

家庭常備薬箱

家庭常備薬箱。家庭常備薬箱。家庭常備薬箱。

富美の家

富美の家。富美の家。富美の家。

家庭常備薬箱

家庭常備薬箱。家庭常備薬箱。家庭常備薬箱。

サンパウロの昔の面影

（4）

サンパウロの昔の面影。サンパウロの昔の面影。サンパウロの昔の面影。

母國留學の所感

西江護の歸伯報告

母國留學の所感。西江護の歸伯報告。母國留學の所感。西江護の歸伯報告。

木炭の蘭

木炭の蘭

木炭の蘭。木炭の蘭。木炭の蘭。

求炊事婦

子持にても可

求炊事婦。子持にても可。求炊事婦。子持にても可。

募集

見習（十六、七、二名）

募集。見習（十六、七、二名）。募集。見習（十六、七、二名）。

貸シヤカラ

イタチ一坪一三三平方米

貸シヤカラ。イタチ一坪一三三平方米。貸シヤカラ。イタチ一坪一三三平方米。

賣ベソソ

政府許認可済のベソソ

賣ベソソ。政府許認可済のベソソ。賣ベソソ。政府許認可済のベソソ。

坂本秀雄君

家庭常備薬箱

坂本秀雄君。家庭常備薬箱。坂本秀雄君。家庭常備薬箱。



健康：家庭にエビオス

健康：家庭にエビオス

健康：家庭にエビオス。健康：家庭にエビオス。健康：家庭にエビオス。

御老人方の

お父さんの

御老人方の。お父さんの。御老人方の。お父さんの。

お母さんの

お子供衆の

お母さんの。お子供衆の。お母さんの。お子供衆の。

騒々しい世の中となりましたが

家庭内だけは朗らかに平和で

騒々しい世の中となりましたが。家庭内だけは朗らかに平和で。騒々しい世の中となりましたが。家庭内だけは朗らかに平和で。

南米銀行

南米銀行。南米銀行。南米銀行。

富美の家

富美の家。富美の家。富美の家。

家庭常備薬箱

家庭常備薬箱。家庭常備薬箱。家庭常備薬箱。

本年上四ヶ月の 棉花輸出状況

トン当り 價額激落す

本年上四ヶ月の棉花輸出は、前年同期比で、六六六トンの増加を示した。これは棉花の増産と、輸出の増加とが原因である。前年同期比で、棉花の増産は、一、九〇〇トンの増加を示した。これは棉花の増産と、輸出の増加とが原因である。前年同期比で、棉花の増産は、一、九〇〇トンの増加を示した。これは棉花の増産と、輸出の増加とが原因である。

生産高から見た 伯棉と聖州棉

聖州棉は約六割

一九三八年度ブラジルは世界棉花生産高の第四位にあり、その生産高は、一、九〇〇トンの増加を示した。これは棉花の増産と、輸出の増加とが原因である。前年同期比で、棉花の増産は、一、九〇〇トンの増加を示した。これは棉花の増産と、輸出の増加とが原因である。

ア・ボ兩國間に 物々交換協定成る

石油と砂糖を交換

アルゼンチンとブラジルの間に、石油と砂糖を交換する協定が成立した。これは、アルゼンチンがブラジルに砂糖を供給し、ブラジルがアルゼンチンに石油を供給するものである。この協定は、兩國間の貿易を促進し、資源の安定供給に貢献するものと見られる。

本年上五ヶ月を通じ 船腹の減退は 一〇二万噸餘

本年一月から五月までの五ヶ月間、船腹の減退は、一〇二万噸餘に達した。これは、船舶の老朽化と、新造船の不足が原因である。船腹の減退は、貿易の妨げとなり、経済に悪影響を及ぼしている。政府は、船舶の更新と、新造船の増産を促進する必要があると見られる。

逐年増加を示す 銑鐵生産高

但し單價は漸落

ブラジルの銑鐵生産高は、逐年増加を示している。これは、工業の発展と、需要の増加が原因である。しかし、單價は漸落傾向にある。これは、生産量の増加と、競争の激化が原因である。政府は、生産者の利益を保護し、品質の向上を促進する必要があると見られる。

輸入品目別に見ると、食料品、工業原料、機械品などが主要な輸入品である。輸出品目別に見ると、棉花、砂糖、大豆などが主要な輸出品である。貿易のバランスは、概ね安定しているが、輸入品の単價は下落傾向にある。

ブラジルの 輸入源泉

O. B. アゼヴェード

ブラジルの輸入源泉は、主にアメリカ合衆国とヨーロッパである。アメリカからは、食料品、工業原料、機械品などが輸入されている。ヨーロッパからは、工業原料、機械品、奢侈品などが輸入されている。輸入の増加は、ブラジルの経済成長を支えている。

船舶の減退

船舶	噸數
アルゼンチン	100,000
ブラジル	100,000
イギリス	100,000
フランス	100,000
アメリカ	100,000
日本	100,000
その他	100,000

輸入品目別

品目	噸數
食料品	100,000
工業原料	100,000
機械品	100,000
奢侈品	100,000
その他	100,000

輸出品目別

品目	噸數
棉花	100,000
砂糖	100,000
大豆	100,000
その他	100,000

自動車と 附属品輸入高

一九三八年上四ヶ月間の自動車と附属品の輸入高は、前年同期比で、一〇二万噸餘に達した。これは、自動車産業の発展と、需要の増加が原因である。政府は、自動車産業の発展を促進する必要があると見られる。

革新の怒濤

革新の怒濤は、社会のあらゆる分野に波及している。これは、科学技術の進歩と、社会の発展が原因である。政府は、革新を促進し、社会の発展を支援する必要があると見られる。



この挿絵は、知識の追求と、学問の発展を象徴している。革新の怒濤は、知識の追求と、学問の発展を促進する必要があると見られる。

革新の怒濤は、社会のあらゆる分野に波及している。これは、科学技術の進歩と、社会の発展が原因である。政府は、革新を促進し、社会の発展を支援する必要があると見られる。

Chacara K. KODAMA

アレンダ 貳拾家族募集

地質 地球肥沃にして万作に適し最も良の健康地、トマテ、イチゴ、バナナ、米、水は豊富にあり

位置 スズノ(中)より十軒の距離、植民地に隣接し尚果樹園を擁して毎日数回に於て乗合自動車の便あり

交通 毎日数回に於て乗合自動車の便あり

文化 同果樹園に隣接して学校及青年會館等及モ産業組合支店等の施設あり母國日本に在る如く何等の不便を感じず

条件其他詳細は面談の上決定

セントラル線 兒玉果樹園

Casa Regina Ltda.

Rua S. Bento, 28 - Fone 3-1567

São Paulo

ザイ下 ミク靴 カネ靴

其他紳士向用品

全品特價提供、是非御来店を

ポポ・ポポ・ポポの近く
サン・ベント通りです

Cine Santa Helena

—Praça da Sé—

日支事變

上海空中並に市街戦
信用出来る日支紛争史の一篇

●HOMENS SINISTROS
Drama 他數篇

午後一時より 入場料壹 2\$000 1\$500
夜2\$000 2\$400 十歳以下入場禁止

TINTURARIA KANEKO Tel. 2-7012

高級洗染

金子 洗濯店

母國に於ける十數年の経験に於ける特殊な洗染技術を應用して必ず皆様の御満足を得る事と存じます

多量の洗染は無料

チリビニヤ街 100番地

電話 2-7012

御電話下されば直ちに奉仕致します

O Japão estaria na contingencia de tomar medidas de precaução na Indochina

TOKYO, 23 (U. P.) — É possível que o Japão esteja na contingencia de tomar "medidas de precaução", devido às versões circulantes de que forças britânicas e chinesas se aprestam para invadir a Indochina.

DECLARAÇÕES OFICIAIS JAPONESAS

TOKYO, 22 (T. O.) — Na Conferência de Imprensa de hoje declarou o porta-voz do Departamento de Informações Japonesas que até agora não fora recebida nesta capital confirmação das notícias de Saigon, conforme as quais tropas britânicas teriam penetrado pelo sul da Indochina Francesa, ou que estariam preparando a invasão.

O porta-voz acrescentou que o Japão mantinha-se na expectativa. Desde que se verificasse uma violação do território indochinês, imediatamente, tanto a França como o Japão tomariam as providências requeridas pelo acontecimento. Os esforços ingleses e norte-americanos no

Declarações do porta-voz japonês — O general Sumida conferenciou com o almirante Decoux — O que se informou em Vichy — Comentário do "Yomiuri Shimbun"

sentido de criar uma frente comum, unidos aos chineses e russos, contra o Japão, estão sendo especialmente observados pelos japoneses.

O GENERAL SUMIDA CONFERENCIOU COM O GOVERNADOR DECOUX

BANGKOK, 22 (T. O.) — O chefe da Missão Militar Japonesa na Indochina, comandante Raishiro Sumida celebrou novamente hoje à tarde uma entrevista de uma hora com o governador geral francês Jean Decoux. Espera-se outra entrevista para quarta-feira. Já na segunda-feira Sumida conferenciara com Decoux.

TOKYO, 23 (T. O.) — De acordo com informações da imprensa, o chefe do corpo militar de inspeção nipônico na Indochina, major-general Sumida, entrevistou-se, de novo, ontem,

com o governador geral daquela possessão francesa, Decoux. Teria versado a respectiva entrevista em torno de supostas conspirações por parte de Chungking e da Inglaterra em combinação com elementos degaulistas na Indochina.

O QUE SE INFORMA EM VICHY

VICHY, 22 (T. O.) — Do nosso correspondente, Kurt Schmidt: — Nos círculos políticos desta capital foi registrada com grande atenção a alusão feita pelo porta-voz japonês, no Parlamento, sobre as duas entrevistas celebradas em Vichy pelo embaixador nipônico com o almirante Darlan. Acentua-se em Vichy que se

tratou de "conversações" e não de "negociações", como o indicam as notícias procedentes de Tokyo.

Entre outros temas, como é lógico se supor, teria sido abordada a questão da Indochina. É natural também que as potências interessadas no Extremo Oriente tratem de tais problemas. Tudo isto, entretanto, não quer dizer que se esteja negociando. As relações entre a Indochina e o Japão estão reguladas num certo número de tratados, tratados esses que são objeto de conferências, regularmente. Até agora, não houve modificação alguma.

As condições estipuladas nos tratados aludidos, como é também natural, dependem cada vez mais da situação internacio-

nal e, neste ponto, salienta-se que a França já reconheceu ao Japão como o principal interessado nas questões do Extremo Oriente.

COMENTARIO DO "YOMIURI SHIMBUN"

TOKYO, 22 (T. O.) — O "Yomiuri Shimbun" em seus comentários de hoje interpreta a designação do ministro Duff Cooper para Singapura como aumento na tensão política inglesa no Extremo Oriente, pois este ministro, diz o articulista nipônico, contaria conseguir colaboração com a U. R. S. S. questão de Chungking, o que representaria perturbação na política nipônica do Extremo Oriente por parte da Inglaterra.

SERA' ORGANIZADA a Associação da Mocidade Pró-Política Imperial

TOKYO, 23 (D.) — A organização dos jovens que se acham fora da Juventude Japonesa, que é orientada pelo Ministério da Educação, constituiu um sério tema debatido na última reunião do Conselho de Colaboração da Associação Pró-Política Imperial. Na sessão de hoje da Associação Pró-Política Imperial foram tomadas as seguintes deliberações sobre a organização de uma entidade juvenil, que será fundada até meados de Agosto próximo.

1) — A nova organização chamar-se-á "Associação da Mocidade Pró-Política Imperial" e colaborará ativamente com a Associação Pró-Política Imperial, tendo porem caráter autônomo.

2) — Os membros da Associação

trabalharão nos setores de suas atividades sob a orientação de guias.

3) — A instrução e educação dos membros da Associação constituem um dos seus deveres precípuos. A idade será de 21 anos para cima. Será adotado o princípio de autonomia.

4) — As aldeias, vilas e cidades constituirão as unidades menores. Entretanto em grandes entidades poder-se-ão admitir exceções.

5) — Nos municípios e províncias existirão apenas órgãos de orientação.

A nova sociedade será um dos batalhões de proteção do movimento pró-política Imperial, pois seus membros entregar-se-ão de corpo e alma à consecução da política nacional.

Uma ilha do Equador arrendada por uma empresa norte-americana

WASHINGTON, 23 (D.) — O secretário do Comércio sr. Johns declarou hoje que uma empresa norte-americana arrendou à ilha Albermal, do arquipélago Pagos, pertencente ao Equador e situado no Pacífico. A empresa trabalhará para a exploração da ilha. Na semana passada o sr. Johns declarou que a

Empresa de Financiamento forneceu à Companhia Exploradora do Pacífico a importância de 500.000 dólares para ser empregada na exploração da ilha Albermal. A empresa em questão tem por objetivo explorar a indústria pecuária e indústria marítima da ilha, mas consta

também que ela visa a abertura de uma linha aérea entre a ilha e os Estados Unidos.

A cultura de beterraba em Hokkaido

TOKYO, 23 (D.) — A cultura de beterraba em Hokkaido tem e intensificado rapidamente, devido às medidas sábias tomadas pelo governo da ilha. As companhias Hokkaido Seito e Meiji Seito terminaram normalmente as suas plantações. O crescimento da beterraba está se processando com regularidade. As duas companhias tem, em conjunto, uma área de 17.000 "chobo" e espera-se um aumento de 30 por cento na colheita em relação à de 1941. Calcula-se que, se até Setembro próximo as condições climáticas forem favoráveis, a safra atingirá a 500.000 "pickles".

Nomeações no "Gaimushô"

TOKYO, 23 (D.) — O sr. Go Inoue, foi nomeado consul geral em Wellington e membro da comissão japonesa para demarcação da fronteira entre Tai e Indochina. O tenente-intendente S. Fukuba foi nomeado adido junto à citada comissão.

Será fundada uma empresa de controle do carvão mineral no Mandchukuo

TOKYO, 23 (D.) — Os produtores de hulha no Mandchukuo estão preparando a organização de uma empresa de controle similar à existente no Japão. A produção de carvão mineral no Mandchukuo está sob um controle relativamente elevado e a nova empresa será criada e mantida com relativa facilidade.

Ao que se acredita, a nova empresa será dirigida pelo governo, não tendo autonomia jurídica.

Os embaixadores da Alemanha e Italia conferenciaram com o almirante Toyoda

O embaixador Shigemitsu no "Gaimushô" — O novo vice-ministro do Exterior

TOKYO, 22 (T. O.) — Informa o porta-voz do governo, que o novo ministro do exterior, almirante Toyoda, recebeu imediatamente após sua nomeação os embaixadores da Alemanha, general Otto e o da Itália, Mario Inelli, acrescentando que o Japão continuaria conservando o espírito e os objetivos do pacto triplice, e que sua política exterior continuaria a se apoiar nessa base. Disse mais lhe parecer supérfluo dar maiores explicações, porquanto esse pacto fala

por si mesmo". O novo ministro nipônico ainda não recebeu o embaixador soviético em Tokyo.

O EMBAIXADOR SHIGEMITSU CONFERENCIOU COM O MINISTRO DO EXTERIOR

TOKYO, 22 (T. O.) — O embaixador japonês em Londres, sr. Shigemitsu, trasladou-se hoje ao Ministério dos Exteriores, onde teve uma conferência de duas horas com o minist-

ro do mesmo departamento, dando notícias minuciosas sobre a situação na Inglaterra.

O SR. YAMAMOTO NOMEADO VICE-MINISTRO DO EXTERIOR

TOKYO, 22 (T. O.) — Para vice-ministro dos Exteriores japonês, foi nomeado o diretor do Departamento de Assuntos da Ásia Oriental, sr. Kumaichi Yamamoto — conforme hoje se anuncia.

As tropas germanicas, rumenas, húngaras e slovenas perseguem os russos na Ukrania

Quebrada a resistência russa no lago Ladoga — As perdas soviéticas — Êxitos finlandeses — Moscou novamente bombardeada — Comentários

Quartel General do "Fuehrer" 23 (U. P.) — Urgente. — Comunica o Estado Maior alemão que as forças germanicas, rumenas, húngaras e slovenas, que operam na Ukrania, continuam a perseguir, sem cessar, as tropas russas.

QUEBRADA A RESISTENCIA RUSSA

BERLIM, 23 (U. P.) — Urgente. — Declara-se em fontes autorizadas alemãs, que as forças teuto-finlandesas quebraram a resistência russa a leste do Lago Ladoga e penetraram em território russo.

AS PERDAS RUSSAS

BERLIM, 22 (T. O.) — Ontem, durante o avanço sobre o setor do Dniester, as tropas blindadas alemãs fizeram 10.000

prisioneiros, destruindo 220 "tanks" e 40 canhões. Na região de Porboy, as tropas blindadas destruíram também na jornada de domingo 98 "tanks" soviéticos. As perdas sofridas em nossas forças foram reduzidas não obstante a violência da luta. Outros 73 "tanks" soviéticos foram destruídos no dia 20, na região de Witebsk. As unidades soviéticas avançaram contra as linhas alemãs em ondas amplas e profundas. Dos 133 "tanks" atacantes, foram destruídos 73 pela divisão blindada alemã. O ataque fracassou inteiramente.

EXITOS DOS FINLANDESES

HELSINKI, 21 (T. O.) — No decorrer das últimas 24 horas os finlandeses obtiveram longos e amplos êxitos nas frentes de batalha. A oeste do lago Lado-

ga, foi derrotado um regimento de 3.000 homens por forças finlandesas inferiores numericamente. Várias localidades de importância estratégica na Carelia Soviética foram ocupadas. Parece que o inimigo está procedendo a uma sistemática retirada afim de ocupar novas posições interiores. Durante as últimas 24 horas foram abatidos 8 aviões adversários.

A "LUFTWAFFE" ATACOU MOSCOU PELA SEGUNDA VEZ

LONDRES, 22 (D.) — Informa a rádio alemã que a aviação teuta atacou Moscou novamente, hoje às 18 horas.

O bombardeio continua ainda, produzindo enormes incêndios e causando danos maiores aos do primeiro bombardeio.

ACONTECIMENTO JAMAIS VISTO, O BOMBARDEIO DE MOSCOU — O QUE DIZ UM COMENTARISTA ALEMAO

BERLIM, 22 (D.) — O senhor Martin Winkermann, comentarista alemão, que tomou parte no grande bombardeio aéreo de Moscou realizado na noite de 21, comunica:

"Grandes grupos de bombardeiros alemães dirigiam-se em direção aos céus orientais, uns em seguida outros desde o escurer do dia 21. O avião em que me achava também seguiu a mesma direção com um enorme carregamento de bombas para serem lançadas na capital da revolução mundial. Em terra dão-se também violentos encontros. Transpondo as linhas mais avançadas, chega-se em terras desconhecidas. O número de aviões aumenta cada vez

mais. Voando um pouco mais, começamos a ver labaredas de fogo sobre a terra; são os resultados das ações dos aparelhos alemães. É a capital da U. R. S. S. que está sendo bombardeada. As proximidades do palácio de Kremlin estão também envolvidas pelas chamas. Centenas de faróis cruzam os céus em todos os sentidos à procura dos aviões germanicos. Os canhões anti-aéreos de todos os tipos entram em ação.

Já tomei parte nos bombardeios aéreos de Londres e Liverpool, mas jamais assisti a um bombardeio de tão grandes proporções como esse de Moscou. O centro do bolchevismo está para ser eliminado pela aviação germanica. Quando regressamos às nossas bases, após os bombardeios já despontava o dia. Moscou foi bombardeada a noite toda".

AQUISIÇÃO de materias primas russas pelos EE. UU.

WASHINGTON, 22 (D.) — O secretário do Comércio sr. Johns declarou, na entrevista hoje concedida aos jornalistas, que a U. R. S. S. propôs fornecer matérias primas bélicas aos Estados Unidos, como parte do pagamento de mercadorias adquiridas destes últimos. A proposta em questão foi feita há uma semana pelo embaixador soviético em Washington, não sendo esclarecidos quais os artigos que a Rússia se propõe fornecer aos Estados Unidos. Entretanto, o sr. Johns declarou que os Estados Unidos estão preparados para adquirir todo o material que a U. R. S. S. desejar fornecer aos Estados Unidos. Antes da declaração do sr. Johns, a "A. P." informou que os EE. UU. tinham iniciado a pesquisa de matérias primas que podem adquirir da U. R. S. S.

Segundo essa informação, os Estados Unidos desejam adquirir manganês, cromo, artigos farmacêuticos e outras matérias primas. Quanto ao problema de transportes basta aproveitar a viagem de volta dos 10 ou 12 navios soviéticos que serão empregados para conduzir material bélico dos Estados Unidos à U. R. S. S., através do Pacífico. Considera-se problema mais grave o transporte no Transiberiano.

A exportação dos Estados Unidos no primeiro trimestre do corrente ano, para a U. R. S. S. foi de 22 milhões de dólares e a importação de 10 milhões.

As forças japonesas no encalço dos chineses

De uma base da China, 23 (D.) — As colunas japonesas que tomaram a base do novo 4.º exército comunista chinês de Yenchang, estão perseguindo os inimigos que se retiram para leste e nordeste. Em numerosos encontros, os chineses estão sendo destruídos e aprisionados. Ao sul de Yenchang a coluna Kato apreendeu 30.000 granadas de mão, 300 projetos de morteiros e grande quantidade de ferro velho. Outrossim a

avição militar japonesa, colaborando com as forças de terra, está bombardeando os caminhos inimigos da retaguarda.

Tsanshan bombardeada

De uma base da China, 23 (D.) — Comunica o serviço de informações da esquadra japonesa da China Central:

"A esquadilha aérea comandada pelo comandante Imaska, bombardeou Tsanshan, ontem à tarde, destruindo os estabelecimentos militares da 176.ª divisão inimiga e causando grandes incêndios. Não houve perdas da nossa parte".

Roosevelt tomará nova medida para impedir a penetração da influencia alemã na America Latina

WASHINGTON, 22 (D.) — Na entrevista de hoje com os jornalistas, o presidente Roosevelt declarou que adotará uma nova medida contra a penetração da influência alemã na América Latina. Não explicou, porem, em que consistia essa medida.

O Presidente Getulio Vargas visitará o Paraguai

Constituída uma comissão nacional para receber o Presidente Brasileiro

Comentários da Imprensa Paraguai

RIO, 22 (A. N.) — Provocou involuntariamente o interesse em toda a nação paraguaiense a notícia da visita do presidente Getulio Vargas.

A propósito desse acontecimento, o general Higinio Morinico, presidente do Paraguai, assinou um decreto constituindo uma comissão nacional de recepção ao hóspede ilustre. Desta comissão, que será presidida pelo dr. Celso R. Velasquez, reitor da Universidade, participam nomes os mais destacados da vida política e cultural do Paraguai.

RIO, 22 (A. N.) — A visita do presidente Getulio Vargas ao Paraguai vem merecendo da imprensa do país amigos largos comentários.

Um dos mais importantes diários de Assunção publica um editorial sob o título "Getulio Vargas será nosso hóspede", havendo, entre outros tópicos, os seguintes: "Trata-se de um

acontecimento de extraordinária transcendência, não só porque pela primeira vez na história do Paraguai nos visitará o presidente de um Estado estrangeiro, como pela personalidade realmente excepcional daquele que será nosso hóspede.

Getulio Vargas não é apenas o mais ilustre filho do Brasil contemporâneo; é uma personalidade americana, uma das figuras que marcarão época nos destinos do continente. Inspirando-se nas modernas doutrinas políticas, soube criar com princípios universais um sistema apropriado ao Brasil, de acordo com suas características e necessidades. Demonstrou assim, ao lado do seu gênio político, a vitalidade desses postulados renovadores que constituem, no dizer de um escritor, os imperativos do século em que vivemos. Por isso, a sua obra não é apenas nacional, ultrapassando as fronteiras da sua ter-

ra como esplêndida lição de patriotismo, de caráter e de eficiência construtiva.

O governo da revolução paraguaiense e o povo saberão acolher com todo o calor de sua simpatia e admiração ao preclaro estadista que nos honrará com sua presença. Desde já "El Tiempo", se associa jubilosamente ao importante acontecimento, pois Getulio Vargas é para nós algo mais que o grande presidente

de uma República vizinha e amiga, algo mais que um estadista que orientou a política internacional do seu país no sentido de vincular ao nosso pelos laços de solidariedade, — é, acima de tudo, o realizador admirável da nova ordem nacionalista que nós também estamos inaugurando em nossa pátria. Nenhum elogio mais alto em nosso conceito lhe poderia ser tributado".

Os conselheiros do Conselho Privado proibidos de participar das sessões do Conselho

TOKYO, 23 (D.) — Atendendo à solicitação do governo, o Conselho Privado, realizará

durante esta semana, sessões extraordinárias do Conselho para discutir os problemas de grande importância do momento.

O presidente do Conselho, sr. Hara, pediu na sessão de hoje que deixassem de tomar parte nas sessões extraordinárias desta semana, os conselheiros do Conselho.

Troca de mensagens entre os chefes dos governos de Tokyo e Nankin

O restabelecimento da Nova Ordem no Extremo Oriente

TOKYO, 23 (D.) — E' o seguinte o texto da mensagem enviada pelo chefe do governo da China, sr. Wang-Ching-Wei sobre o restabelecimento da Nova Ordem do Extremo Oriente:

"A organização do novo governo japonês visa a consolidação da organização nacional para em seguida fazer face às grandes transformações da situação internacional. Para isso, foi feita uma grande e perfeita reforma do gabinete como facilmente pode ser verificada. A política exterior não sofrerá alteração. Será igualmente executado também o plano de operações nipo-chinesa segundo os princípios estabelecidos na recente visita de s. excia. ao Japão. Esperamos da parte de v. excia. toda a colaboração no sentido de ser conseguido o nosso velho desejo de mútuo progresso da Ásia Oriental. Também da nossa parte empreendemos os nossos melhores esforços para a perfeita união entre as duas potências".

O texto da mensagem do che-

fe do governo chinês, sr. Wang-Ching-Wei, em resposta à mensagem do príncipe Konoque:

"Soubemos por intermédio do nosso embaixador em Tokyo que v. excia. sr. príncipe Konoque, acatou a terceira vez a direção do governo imperial. Recebemos com grande satisfação a mensagem de v. excia. nos enviou, por intermédio do ministro Hidaka. Os nossos dois países devem marchar sempre baseados nos princípios inabaláveis estabelecidos entre os dois governos. Assim conseguiremos a paz por nós almejada e o restabelecimento da ordem no Extremo Oriente será em breve uma realidade. V. excia. foi o implantador desses fundamentos. O fato de termos unido com o Império Japonês, aumenta a nossa convicção na consecução dos nossos planos e mais do que nunca, faremos todo o nosso esforço possível para a realização final do nosso objetivo.

Apresentando os nossos sinceros agradecimentos a v. excia. fazemos votos para a felicidade e saúde pessoais de v. excia."

120 mil contos serão gastos pela prefeitura em várias obras de que necessita a cidade

A Prefeitura projeta iniciar, ainda este ano, vários empreendimentos urbanísticos de vulto. Ainda há poucos dias noticiamos que vai ser aberta uma grande praça na parte fronteira à Estação da Estrada de Ferro Sorocabana. Dentro em breve ao que fomos informados, o Departamento de Obras dará início às primeiras demolições que se fazem necessárias. Dentro de dois anos, no mais tardar, estará concluída a nova praça, que será uma das maio-

res de São Paulo, dado que ficará ligada à praça Princesa Isabel. A retificação do Tietê, por outro lado, está bem adiantada. O segundo trecho está praticamente concluído, devendo logo mais a Prefeitura, talvez por administração direta, iniciar o terceiro trecho. Há algum tempo o prefeito Prestes Maia encaminhou ao Departamento Administrativo um projeto de decreto-lei solicitando a abertura de um vultoso crédito de 120 mil contos para a exe-

O Japão invadiria a Indochina ainda esta semana

LONDRES, 22 (UNITED PRESS) — Os círculos autorizados desta capital expressam hoje sua crença de que o Japão invadirá a Indochina ainda esta semana. Opinam, também que o governo dos Estados Unidos replicará, estabelecendo novas restrições ao intercâmbio comercial com o Japão.

Tais versões coincidem com outras da agência japonesa "Domei" de que a Grã-Bretanha e os chineses nacionalistas se preparam para atacar a Indochina. Acredita-se que este seria o pretexto que utilizaria o Japão para invadir aquela possessão francesa, "afim de impedir sua ocupação por forças inimigas".

Nas esféras autorizadas qualifica-se de "algo intranquilizador" a notícia segundo a qual o sr. Ohashi, — funcionário oficial nipônico que em princípios de Julho assegurou ao embaixador britânico, "sir" Joseph Craigie, que o Japão não pensava em atacar a Indochina — figura entre os que recentemente apresentaram suas renúncias. Outros, consideram-se alarmantes os contínuos ataques da imprensa nipônica contra as autoridades da Indochina.

A LUTA CONTRA O COMUNISMO NA CHINA

Palavras do tenente-coronel Akiyama — Convocados os reservistas japoneses de Shanghai

SHANGHAI, 22 (T. O.) — O tenente-coronel Akiyama, porta-voz do exército japonês, declarou, hoje, que a luta contra a influência comunista só é possível, consoante os ensinamentos históricos, por meios autoritários, ao referir-se às tentativas enviadas pelo lanqui Lattimore, para servir de mediador em Chungking, entre o Kuomintang e os comunistas. Semelhante mediação está previamente condenada ao fracasso — no dizer daquele elemento — visto que os comunistas chineses possuem, realmente, 800.000 homens e não 45.000 conforme o convênio estabelecido com Chang-Kai-Chek.

SHANGHAI, 22 (T. O.) — Segundo informa o cel. Akiyama porta-voz militar japonês, os reservistas desta capital foram convocados às fileiras. Interpelado sobre o motivo da convocação, declarou esse porta-voz que "os campos de operações na China são tão extensos como os campos de operações alemãs na Europa, enquanto que as forças nipônicas eram apenas a sexta parte das alemãs. Assim, pois, impõe-se a instrução de reservistas japoneses afim de poderem fazer frente a qualquer eventualidade".

a influência comunista só é possível, consoante os ensinamentos históricos, por meios autoritários, ao referir-se às tentativas enviadas pelo lanqui Lattimore, para servir de mediador em Chungking, entre o Kuomintang e os comunistas. Semelhante mediação está previamente condenada ao fracasso — no dizer daquele elemento — visto que os comunistas chineses possuem, realmente, 800.000 homens e não 45.000 conforme o convênio estabelecido com Chang-Kai-Chek.

SHANGHAI, 22 (T. O.) — Segundo informa o cel. Akiyama porta-voz militar japonês, os reservistas desta capital foram convocados às fileiras. Interpelado sobre o motivo da convocação, declarou esse porta-voz que "os campos de operações na China são tão extensos como os campos de operações alemãs na Europa, enquanto que as forças nipônicas eram apenas a sexta parte das alemãs. Assim, pois, impõe-se a instrução de reservistas japoneses afim de poderem fazer frente a qualquer eventualidade".

Chuvas torrenciais em Tokyo

TOKYO, 22 (United Press) — O serviço meteorológico prevê que amanhã a noite cairão sobre Tokyo as chuvas mais torrenciais da história, após 10 dias de chuvas quase contínuas que culminaram com o furacão de ontem a noite.

A polícia informou que o número de casas alagadas esta semana pelas chuvas em Tokyo é superior a 12.000. Nas últimas 4 horas tinha-se avisado aos navios que deveriam procurar imediato refugio, principalmente os que navegavam nas proximidades da baía de Sagami. O vento continuava intenso esta manhã. O trafego ferroviário ficou interrompido devido ao desmoronamento de terras por onde os trens deveriam passar.

O embaixador Honda retirou o seu pedido de demissão

TOKYO, 22 (D.) — O sr. Kumataro Honda, embaixador japonês na China, resolveu retirar o seu pedido de demissão e permanecer naquele cargo. Hoje à tarde visitou o príncipe Konoque, com quem conferenciou longamente.

Um milhão e meio de homens, é quanto o Japão mantém na China

SHANGHAI, 22 (U. P.) — Um porta-voz do exército manifestou que as forças do Japão na China atingem atualmente a sexta parte dos efetivos do exército alemão (aproximadamente um milhão e meio de homens), muito embora os japoneses ocupem uma extensão territorial semelhante em tamanho a que ocupam os alemães na Europa. Acrescentou que por esse motivo o Japão deve estar preparado para toda a eventualidade.

Foram reduzidos os envios de petroleo para o Japão

LONDRES, 22 (U. P.) — O novo sub-secretário das Relações Exteriores, sr. Richard Law declarou na Câmara dos Comuns que os envios de petróleo britânico para o Japão foram consideravelmente reduzidos.

Severo controle de navegação japonesa

TOKYO, 23 (T. O.) — Escrevem os jornais nipônicos de hoje que dentro em breve a navegação mercante japonesa será submetida a um severo controle por parte do governo, afim de adaptar também esse importante ramo econômico do Japão às atuais circunstâncias críticas internacionais.

O tufão que devastou o Japão

TOKYO, 22 (T. O.) — Comunica-se que o tufão que se aproximava de Tokyo não chegou a tocar a capital japonesa mas devastou toda a região de Shizuoka. Conforme as notícias de até agora, houve 34 mortos. Foram inundadas 25.900 casas.

Estariam se realizando movimentos de tropas nipônicas, em direção á fronteira da Siberia

SHANGHAI, 22 (U. P.) — Informes dignos de maior crédito anunciam que se estão realizando movimentos de tropas nipônicas, em grande escala, em direção á fronteira da Siberia. Acrescentam que as autoridades militares japonesas suprimiram, materialmente, todo o transito não militar, nas regiões setentrionais da China, Manchukuo e Japão, em virtude dos grandes movimentos de mobilização.

A este respeito, recorda-se que na semana passada foi anunciada a mobilização geral no Japão. Os residentes estrangeiros não po-

dem obter passaportes ou "visto" em seus passaportes para o Mandchukuo, devido aos movimentos militares que se realizam pelas linhas férreas. Por outro lado, os navios japoneses que se dirigem para o norte, procedentes de Shanghai, não aceitam passageiros a bordo. As notícias aqui recebidas dizem também que os residentes estrangeiros de Peiping não podem obter passagens ferroviárias para nenhum ponto da China setentrional porquanto agora ha constantes e intensos movimentos de tropas através de Peiping, Tien-Tsin, Kolan e Mongolia Interior.

AS SABOTAGENS NOS ESTADOS UNIDOS

WASHINGTON, 23 (D.) — Deram-se nos últimos 12 meses numerosos atos de sabotagens principalmente em bases marítimas e em fábricas. Consta que a cidade de São Francisco é a base de ação da propaganda alemã e segundo investigações procedidas pelo Departamento da Marinha há nas regiões ilóticas ocidentais do Oceano Pacífico cerca de 400 nazistas em ação.

Vamos dar em seguida os atos de sabotagem verificados, segundo um comunicado recente:

1) — Durante o mês de Maio deu-se um incêndio nas florestas de Filadélfia causando um

prejuizo de cerca de 2 milhões de dólares. Esse incêndio foi constatado como ato de sabotagem;

2) — Também foi ato de sabotagem o incêndio dado nos órgãos centrais da base naval de Norck. Os prejuizos foram de 150 mil dólares;

3) — Os poderes norte-americanos consideram como pertencentes á ala nazista ou comunista 66 dos 15.000 operários do arsenal de marinha de Boston;

4) — No arsenal de marinha existente em Califórnia, localidade onde mais se dão atos de sabotagem, sabe-se que trabalham muitos operários de origem italiana e alemã.

Entregues á União os bens do famoso "scroc" Deleuse

RIO, 22 — Foi deferida a petição do procurador Temistocles Cavalcanti, para que sejam entregues á União os bens do famoso "scroc" internacional Paul Deleuse. Esses bens montam em cerca de 40 mil contos.

O regresso da Delegação Brasileira

BUENOS AIRES, 22 (T. O.) — A delegação militar brasileira, chefiada pelo general Góes Monteiro, que assistiu aos festejos comemorativos da Independência argentina, partiu ontem com destino a Montevideo.

Os automoveis e acessórios importados em 1941

As aquisições de automóveis de todas as espécies, durante o trimestre inicial de 1941, montaram a 5.028 unidades, no valor de 73.834 contos. Os acessórios importados atingiram 5.370 toneladas, valendo 50.033 contos. Em igual período do ano anterior, as compras de automóveis foram 6.393, equivalentes de 83.380 contos; os acessórios somaram 5.764 toneladas, no

valor de 53.409 contos. As câmaras de ar e pneus representaram, de Janeiro a Março de 1941, apenas 312 toneladas ou 4.866 contos, contra 933 toneladas, ou 12.650 contos, nos mesmos meses de 1940.

Impressos ?
Procure a tipografia
NIPPAK-SHA
C. Postal 375 — Tel. 7-3325

ULTIMA HORA Tokyo e Vichy concluíram o acordo com referencia á questão da Indochina

Permitido ao Japão ocupar partes militares na Indochina

WASHINGTON, 23 (U. P.) — Urgente — A embaixada japonesa anuncia ter recebido informações de que Tokyo e Vichy concluíram o acordo com referencia á questão da Indochina.

VICHY, 23 (U. P.) — Informa-se autorizadamente que a França acedeu ás demandas japonesas sobre a Indochina. Porta-voz oficial declarou que a França não faria qualquer objeção ao pedido formulado pelo Japão, para que seja permitido ocupar temporariamente partes militares na Indochina Francesa, se, com isso a soberania francesa não se visse colocada em plano inferior.

Uma advertencia do major Eden

LONDRES, 2 (U. P.) — Urgente — O ministro das Relações Exteriores, major Anthony Eden advertiu ao Japão que não deve pôr suas mãos na Tailândia.

A ligação ferroviária entre o Brasil e Bolívia será concluída em 1944

Chega ao Brasil o material destinado á continuação das obras

CIDADE DO SALVADOR, 21 — De regresso dos EE. UU., onde se achava há seis meses, na qualidade de enviado especial da Comissão Mista Brasil-Boliviana para receber e assistir ao embarque do material ferroviário destinado ao Brasil, e que o "Buarque" está descarregan-

do em vários portos brasileiros, chegou o engenheiro Alvaro Correia de Oliveira.

Falando à imprensa, declarou que volta daquele país satisfeito com a sua missão. O material é avaliado em cerca de 43 mil contos, devendo ir por via marítima e fluvial até o porto de

Corumbá. As locomotivas e vagões são entregues desmontados, e sua montagem será executada em Ladário, onde a comissão já tem instalada uma oficina devidamente aparelhada. Quanto aos trabalhos de construção da estrada, prosseguem os mesmos com a intensi-

dade inicial. Já há cerca de 80 quilômetros de linhas assentadas estendendo-se os trabalhos até S. José de Iquitos, no quilômetro 400. A grande ligação ferroviária, num total de 634 quilômetros, deve estar concluída em fins de 1944.

O perigo da monocultura

Segundo recentes estatísticas, existem no Estado de São Paulo, 11.541 agricultores que se dedicam à cultura do algodão, assim discriminados, segundo as nacionalidades:

Brasileiros	74.728
Japoneses	13.620
Italianos	11.221
Espanhóis	6.547
Portugueses	2.974
Diversos	2.451

Um exemplo tirado da estatística de plantadores de algodão

Os japoneses estão logo abaixo dos brasileiros, em número. A área da maioria das plantações de algodão não passa de um a dois alqueires. Mesmo entre os brasileiros, os que possuem culturas superiores a 100 alqueires de superfície não pas-

sam de duzentos e poucos. A propósito, um técnico japonês fez-nos as seguintes observações: "As estatísticas revelam que dos 945.000 italianos do Estado, somente pouco mais de 11.000 se dedicam à lavoura do algo-

dão, mas é preciso notar que eles realizam progressos admiráveis na pecuária, na fruticultura, na indústria e no comércio. Em geral cultivam apenas um ou dois alqueires, mas isso é devido à policultura — além do algodão plantam sempre outros vegetais. Esta estatística é um bom exemplo para os agricultores japoneses, que costumam plantar 5, 10, e até 20 ou 30 alqueires de algodão, realizando uma perigosa monocultura".

Inaugurado o campo de basebol de Tietê

Aproxima-se o Campeonato de Basebol do Nordeste que terá lugar em Tietê. Nessa localidade foi inaugurado no dia 15 do corrente, o "ground" de basebol, que custou mais de dois contos de réis. No mesmo dia realizou-se um jogo inaugural, entre a turma de solteiros e ca-

sados, terminando com um empate de 9 x 9. Depois do jogo foi oferecido, aos presentes, um suculento churrasco pelo sr. Honda. Os basebolistas de Tietê iniciaram um treino intensivo. (Clíché na pág. japonesa).

Luta de longa duração (Fatos diversos)

Os exprotadores de artigos diversos de Tokyo, Yokohama, Osaka, Kobe, etc., dissolveram as respectivas associações de exportação e fundaram a Associação Japonesa de Exportação de Artigos Diversos para a América Latina. A Associação de Nagoya de Exportação para a América Latina também resolveu fundir-se à nova entidade.

Os moços de Bastos, oferecendo, por intermédio do "BRASIL ASAHI", a importância de 272\$200, às vítimas das águas do Rio Grande do Sul.

PORTO ALEGRE, 21 (A. N.). De acordo com o novo tabelamento dos preços de café, para consumo público, o quilo desse produto, tipo de primeira qualidade, será vendido, a partir de hoje, ao preço de 5\$100 empacotado.

BAIA, 21 (A. N.). — A imprensa assinala a próxima passagem por este porto, a bordo do "Siqueira Campos", da embarcação portuguesa enviada ao Brasil, sob a presidência do acadêmico Júlio Dantas.

A colônia portuguesa desta capital prepara carinhosa recepção aos seus conterrâneos que passarão pela Baía, em trânsito para o Rio de Janeiro.

RIO, 21 (A. N.). — Deixou Porto Seguro, com destino a Santos, o navio-escola "Almirante Saldanha", que deve chegar a aquele porto paulista no próximo dia 2 de Agosto.

PORTO ALEGRE, 21 (A. N.). — Os negócios de gado, neste Estado, apresentam agora ótimas perspectivas, tendo havido na presente safra dois aumentos de preço. O preço recorde do quilo de boi em pé foi alcançado agora no município de Alegrete, onde um fazendeiro local vendeu, a um grande frigorífico de Livramento, gado em pé ao preço de 1\$200 por quilo.

RIO, 21 (A. N.). — Na próxima quinta-feira, às 21 horas, no Teatro Municipal, em espetáculo de gala, estreará "Joujou e Balangandans", de 1941, revista que Luiz Peixoto escreveu e Gad musicou com a colaboração de grande número de compositores do nosso "broadcasting". Ontem, mais uma vez, a senhora Darcí Vargas assistiu, no Teatro Carlos Gomes, aos últimos preparativos, avistando-se a cada momento com suas auxiliares, ouvindo artistas, sugerindo detalhes para o cenário e aprovando sugestões do autor da peça e seus colaboradores.

Na página japonesa publicamos uma fotografia da rua Direita em 1850, ou seja, de há 90 anos. Segundo um observador da atualidade, existem, em 1941, cerca de 60 estabelecimentos na rua Direita. Entrando pelo Largo da Sé, à direita existem: 2 casas de loterias, 2 relojarias, 2 bars, 4 lojas, casas de roupas para crianças, casas de calçados, 2 casas de dois mil réis,

Ainda a questão do preço do arroz

Conforme noticiamos há poucos dias, o Presidente da República assinou um decreto, proibindo terminantemente, a exportação do arroz nacional. Essa medida visa principalmente reter as nossas reservas desse gênero de primeira necessidade. Era opinião geral que com tal medida, o preço do arroz baixaria; não foi, porém, o que sucedeu, pois que vem dia a dia aumentando. O que acontece é que na verdade, uma das causas determinantes da alta é a diminuição

que se tem verificado na produção rizícola. Muito recentemente, comerciantes do interior adquiriram arroz em grande escala em São Paulo e a remessa dessa grande compra — a maioria constituída de meia-arroz aos preços de 62 a 63\$ a saca — atesta bem a escassez desse importante cereal nos próprios centros produtores. Hoje em dia, a retenção praticada mesmo pelos pequenos comerciantes, tem produzido sensível repercussão no preço do arroz.

Detidos sete infratores do preço do carvão na Baía

SALVADOR, 19 (A. N.). — A policia está exercendo severa fiscalização para evitar que os vendedores de carvão burlam o tabelamento de preços. Foram detidos sete infratores que estavam vendendo por 10 mil réis a saca de carvão, cujo preço é estipulado em 5 mil réis. Os carvoeiros detidos vão ser processados.

SÃO PAULO ANTIGO A Rua Direita em 1850

Na página japonesa publicamos uma fotografia da rua Direita em 1850, ou seja, de há 90 anos. Segundo um observador da atualidade, existem, em 1941, cerca de 60 estabelecimentos na rua Direita. Entrando pelo Largo da Sé, à direita existem: 2 casas de loterias, 2 relojarias, 2 bars, 4 lojas, casas de roupas para crianças, casas de calçados, 2 casas de dois mil réis,

casas de tecidos, bazar, casa de meias, "department stores", perfumaria. A esquerda: 8 casas de tecidos, confeitaria, 4 casas de dois mil réis, casa de roupas para senhoras, casa de loterias, cinema, casa de chapéus, 3 bars, casa de peles, 2 lojas, casa de instrumentos musicais, 2 casas de máquinas fotográficas, 2 farmácias, casa de revistas, casa de aparelhos elétricos, 2 tabacarias.

Palestra da srta. Yoneka Nishie

A srta. Yoneka Nishie, que regressou do Japão, pelo "Montevideo Maru", recentemente, vai falar, no próximo dia 26, a partir das 20 horas, no Hotel Tokiwa, sobre suas impressões de estadia de dois anos na terra de seus pais.

Esboço da história da Dança Japonesa

- 6 - Makoto Sugiyama

VIII Viria bem a propósito explicar no momento os três elementos de nossas danças: — o *mai*, o *odori* e o *furi*.

Mai é um movimento, ou melhor, uma sucessão de movimentos lentos, significados e delicados. Este poderá ser considerado como equivalente ao *adagio*. *Odori* é uma forma de dança bastante mais rápida e livre, em movimentos leves e rítmicos. Corresponderia ao *allegro*. *Furi* é a denominação geral das expressões dramáticas das emoções, de acordo com a técnica da dança.

O *Mai* é naturalmente mais aristocrático que o *Odori*. Esta diferença é melhor certificada pelo fato de todas as danças serem chamadas *mai* depois do período de Muromachi; antes deste período a dança era possessão única da Corte. Após Muromachi entraram em voga muitas danças que eram imperfeitas nos movimentos e rústicas na origem. As assim chamadas *folk-dances* de hoje, acredita-se que tenham se originado naquele tempo (são danças que se originaram entre as plebes, sendo, por ela transmitidas). Tanto o *mai* como o *odori* são movimentos simples para serem dançados com música e não com o designo de interpretar o significado de palavras. Quando, porém, a dança atinge um certo grau de desenvolvimento, torna-se impossível ao *mai* e ao *odori* exprimir muito significado e um terceiro elemento então se torna necessário para exprimir alegria, cólera, tristeza ou felicidade, na maioria das vezes em concordância com os cantos. Este terceiro elemento é *furi*. Com a adição deste elemento, as danças simples se convertem em danças dramáticas.

IX

De todos os elementos que dearam nascimento ao drama do *Kabuki*, a dança é o mais fundamental. A origem do *Onna-Kabuki* (*Kabuki* feminino) é atribuída a Okuni, virgem vespal do Santuário de Izumo, — virtualmente, a criadora da tradição do *Kabuki* —, a qual ganhou enorme popularidade, pelo que foi chamada de *Nembutsu-odori*, *Kabuki-odori*, etc. Este *Onna-Kabuki* ou *Wakashu-Kabuki* (*Kabuki* juvenil) todo o drama consistia de simples música de dança. Na época estavam em voga várias formas de danças, como *Komai* e *Su-odori*. No *Wakashu-Kabuki*, todavia, foi desenvolvida uma forma peculiar de dança chamada *Sarubaka*, que tem muita semelhança com o gesticular pantomimico, e, nestas condições, mais elementos dramáticos reais foram acrescentados da tradição *Kyôgen*.

Na escola do *Kabuki* (primitivamente denominada *Yarô-Kabuki*), a dança e o drama foram polidos e levados quasi à perfeição por invenções engenhosas de atores e coreógrafos. Ao mesmo tempo, na arte colateral da música, a invenção e aperfeiçoamento do *shamisen*, levaram ao estabelecimento da música teatral. E assim, o *Jô-ri* — uma recitação muito semelhante ao antigo *glee* (canto) inglês — veio a ser empregado como acompanhamento à dança e produziu um estímulo ao seu desenvolvimento. Nestas condições, todas as formas fundamentais da dança japonesa estavam estabelecidas na era Genroku (fins do século 17).

Por volta dos meados do século 18, o *Nagauta*, o *tokiwazu*, o *tomimoto* e outras formas poéticas se tornaram populares. Todas elas se desenvolveram independentemente, mas estavam submetidas a uma forma de dança-drama, cada uma constituindo um elemento dramático do todo e vieram a ser conhecidas como *Shosagoto* (ballet do *Kabuki*). Com o auxílio dos coreógrafos, que então se torna-

ram profissionais, o *Shosagoto* foi se aperfeiçoando durante a última metade do século 18.

X

Algumas palavras sobre os coreógrafos. Durante os primeiros anos do desenvolvimento do *Kabuki*, a coreografia estava a cargo dos próprios atores. Com o aparecimento do *Shosagoto*, foram surgindo os coreógrafos profissionais uns após outros, formando suas próprias escolas. Dentre as que mais se sobressaíram citam-se as escolas: Fujima, Hanayagi e Wakayagi, de Tokyo; Yamamura e Umemoto, de Osaka; Shinzuka e Inouye, de Kyoto e Nishikawa, de Nagoya, cada uma representando, de fato, uma tradição.

Realmente, o *Shosagoto* é uma dança, ou um ballet, se assim desejais, executada com a melodia e com o ritmo da música cantada. Ao *shamisen*, que é, sempre, o instrumento musical mais importante, juntam-se as flautas, tamborins, e tambores, constituindo uma espécie de orquestra. O desenvolvimento desta orquestra esteve sob a dependência do teatro. Por outras palavras, desenvolveu-se com a música teatral. O *nagauta*, *gidayu*, *tokiwazu*, *kiyomoto* e o *utawava* são algumas de suas inúmeras formas. O *Shosagoto*, portanto, é um termo que inclui uma descrição breve de todos os seus tipos complicados. Assim, há *Shosagoto* de tradição *nagauta*, — algumas familiares como o *Musume-dôjôji* e *Echigo-jishi* —; *Shosagoto* de tradição *Jô-ri*, *Kiyomoto* e assim por diante. Há também *Shosagoto* adaptado de peças do *Nô* e do *Kyôgen*. O familiar *Kanjinchô* e o *Funa-benkei* são originárias do *Nô*, enquanto que o *Shôtschi* é tipicamente do *Kyôgen*.

Uma outra classificação do *Shosagoto* é possível por meio de sua construção. Algumas formas são independentes como uma dança-drama, polidas e de tema consistente: o *Kanjinchô* e o *Musume-dôjôji* pertencem a esta classe. O segundo tipo é uma espécie de dança dramática, que recebe toda a sua ênfase da música e da dança mais do que do tema ou do estilo. Esta forma é naturalmente um pequeno esboço do *Shosagoto*, representado pelo *Kamori* e *Tomoyakko*. Há ainda um terceiro tipo: é um pequeno *intermezzo* introduzido no programa com o fim de atingir um efeito técnico. Algumas peças desta categoria são de difícil compreensão, a não ser que se seja familiar com seus temas e fundamentos. Muitos destes *Shosagoto*, tendo abandonado suas funções originais nos programas do *Kabuki* como *intermezzos*, são agora representados como peças independentes de um ato. O *Yasuna* é um bom exemplo desta digressão.

Em resumo: o *Shosagoto* está intimamente relacionado com as peças do *Kabuki*, tendo se desenvolvido primeiramente como uma dança teatral (e assim sendo, costumes apropriados são vestidos para a sua apresentação em palcos. Para a apresentação fora do palco, os costumes das cerimônias podem ser usados — e a dança nestas condições é chamada *Su-odori*). Tão intrincada e misteriosa é a sua história que é extremamente difícil defini-la em todo o seu significado. Apressadamente, é uma dança clássica do Japão acompanhada por canto musical, sendo o instrumento principal o *shamisen*.

Atualmente estão sendo feitas tentativas para dar novas interpretações a esta dança clássica ou para criar novos tipos, empregando suas técnicas. Foi experimentado, algumas vezes com sucesso, o emprego de música ocidental como parte do acompanhamento. To-

das essas tentativas, porém, não fizeram a dança ultrapassar o seu estado de transição. Ao mesmo tempo, estudantes do gênio e da técnica da dança ocidental estão estudando seriamente a dança japonesa. Se eles poderão ou não contribuir para a dança japonesa como fez o *Bugaku* centenas de anos antes, é para o futuro dizer.

(F I M)

"PEQUENOPOLIS" de Mary Buarque

A conhecida educadora e declaradora Mary Buarque, acaba de publicar "Pequenópolis", interessante trabalho que reúne canções, poesias e ballados apresentados pelos artistas do "Curso Artístico" que tem a sua direção.

Primeiramente apresentado, este livro será por certo bem recebido pelo leitor brasileiro, porque traduz todo o grande trabalho feito por sua autora, no sentido de incentivar na criança o amor pela arte.

Ora realizada com carinho, o Curso de Arte da professora Mary Buarque é uma prova evidente do seu amor e do seu entusiasmo por essa pequenina legião de crianças, que se agita em "Pequenópolis", — uma espécie de mundo infantil de São Paulo.

O Trabalho da professora Mary Buarque traz um prefácio de Correia Júnior e expressivas ilustrações.

Uma reunião na "Holiness" de São Paulo

A Igreja "Holiness", de São Paulo, vai promover uma reunião, no próximo dia 27, para ouvir a sra. Fumiko Kitajima, que regressou ao Brasil no dia 10 do corrente. O lugar da reunião será a sede daquela agremiação à rua Conselheiro Furtado, 161.

Do Fuji

24-VII-1941

Eu estava distraído, vendo uma pintura japonesa antiga. Ouvi alguém me falando:

— Você conhece algum romance, dos que contam do Monte Fuji? O do elixir da vida, por exemplo?

E me contou: — A princesa Kaguya-hime era um anjo incarnado, sobre a Terra. Ela tinha muitos pretendentes, porém a todos desapontou, nem mesmo o Imperador podendo conquistá-la. E, após ter vivido muitos anos na Terra, — conta o "Taketori-monogatari", a mais antiga novela em língua japonesa —, a princesa Kaguya-hime subiu à Lua numa noite de Lua cheia, de Agosto, deixando todos os seus seguidores, que tentavam retê-la. A sua partida, ela deixou o elixir da vida para o Imperador que, todavia estava tão sentido com a perda a ponto de não tomar a preciosa medicina. Ordenou o elixir fosse queimado no topo do Monte Fuji, a mais alta montanha do Japão, porque era o lugar da Terra mais próximo da Lua, mansão de seu amor. Desde então que da montanha ascende fumaça para o céu, da queima do elixir, cujos portais poderiam estar abertos à humanidade, não tivesse o Imperador destruído o legado da princesa da Lua. Também, o Monte Fuji, que é muitas vezes expresso por dois caracteres chineses, significa "não-morte". Expresso por outros caracteres, significa "rica-montanha-do-samurai", e, algumas vezes, "não-duas" ou "uma única montanha". Por certo, que seríamos bem mais diferentes, se o Imperador, não odiando tudo o que lhe recordava a princesa, não tivesse destruído o elixir que dava a vida eterna.

Você não conhecia este romance? conhecia? — M

As Exportações de Algodão em Rama

Dentre os produtos que, no decorrer dos últimos quatro meses alcançaram notável avanço no quadro das nossas exportações, destaca-se o algodão em rama, cujas vendas duplicaram este ano, em relação a igual período de 1940, quanto ao valor e triplicaram quanto ao volume.

Assim é que, de 34.887 toneladas, equivalentes a 151.652 contos, no quadrimestre de 1940, as exportações passaram a 91.381 toneladas, valendo 305.674, nos quatro meses deste ano.

Dentre os países compradores, figuram alguns que em períodos anteriores quase nada adquiriram, tendo aumentado sensivelmente suas compras de algodão em rama nos primeiros quatro meses do ano vigente como, por exemplo, o Japão, a China, o Canadá e vários outros.

Os próprios Estados Unidos, grande produtor do artigo e principal concorrente do Brasil, adquiriram-nos 7.962 toneladas, no valor de 22.924 contos no decorrer dos meses Janeiro-Abril, últimos. Isto significa que a poderosa democracia do norte está seriamente empenhada na campanha de defesa nacional, pois, como é sabido, o algodão constitui um produto amplamente aplicável na indústria bélica.

O Canadá, que, nos anos anteriores, não comprara um único quilo do produto, no quadrimestre inicial deste ano absorveu 17.242 toneladas, no valor de 53.622 contos!

A China, no mesmo período, comprou 3.851 toneladas, equivalentes a 16.515 contos, em 1940 — passando a adquirir 16.826 toneladas, no valor de

51.917 contos, em 1941. Quase quatro vezes mais, tanto em volume como em valor!

Também o Japão foi um excelente mercado para o nosso algodão. Para lá seguiram, em 1940 (quatro meses), apenas 600 toneladas, valendo 2.455 contos, ao passo que em 1941, exportamos 27.666 toneladas, correspondentes a 89.990 contos de réis.

PRINCIPAIS PRODUTOS BRASILEIROS DE EXPORTAÇÃO (Valor em mil réis em 1940)

Produtos	Mil réis
Café	1.595.229.067
Algodão	837.954.659
Carnes	465.812.357
Couros e peles	222.100.757

Ocupa, assim, o grupo de couros e peles o quarto lugar na lista dos principais produtos de exportação do nosso país.

A variação que se verificou na exportação de couros e peles, dá-nos algumas indicações interessantes sobre a mudança nas correntes de exportação

Dos países europeus, apenas a Espanha e a Suécia acusaram aumento em suas aquisições de algodão do Brasil. A Espanha, aliás, nada havia adquirido em 1939 e 1940, passando a comprar em 1941, 6.957 toneladas, no valor de 30.262 contos. Quanto à Suécia, a diferença foi de, apenas 46 toneladas em 1940, valendo 203 contos, para 4.892 to-

neladas, equivalentes a 16.866 contos, em 1941.

Quanto às contações, registou-se sensível baixa no ano em curso, a despeito da maior procura do produto. Assim é que, de 4.347\$000 em 1940, a tonelada passou a valer apenas réis 3.345\$000 em 1941, ou seja, com uma baixa de 1.002\$000.

(“Correio da Manhã” — Rio)

Couros e peles

Para se avaliar a importância da exportação de couros e peles para a economia nacional, basta considerar a posição que ocupa esse grupo, entre os maiores produtos de exportação do Brasil (tabela n. 1).

dessa mercadoria, como é fácil concluir das cifras gerais de exportação no triênio 1938-40 (tabela n. 2).

(Exportação brasileira no triênio 1938-40)

A N O S	QUILOS	MIL RÉIS
1938	55.333.246	208.552.477
1939	57.179.208	244.805.948
1940	51.753.031	222.100.757

O ano de 1939 comparado com o de 1938, revela progresso na exportação tanto em peso como em valor. Em 1940, entretanto, a exportação decaiu, tanto em peso como em valor, com uma diferença apreciável em relação a 1939, de 5.426.257 quilos, ou 22.705.191\$000.

Em 1938, a Alemanha ocupava o primeiro lugar como país importador dos couros e peles de procedência brasileira destacando-se fortemente do segundo

colocado, os EE. UU. Naquele ano, enquanto a Alemanha importava 21.753.868 quilos, os Estados Unidos compravam somente 7.667.869 quilos.

Já em 1939, a situação mudou completamente. A Alemanha adquiriu apenas 11.744.883 quilos, ou seja, praticamente, metade de suas compras em 1938, enquanto que os Estados Unidos compraram 15.882.290 quilos, isto é, mais do dobro do que importaram em 1938.

COUROS E PELES (Exportação brasileira em quilos para os três principais países importadores no triênio 1938-40)

PAISES	1938	1939	1940
ESTADOS UNIDOS	7.667.869	15.882.290	22.448.770
GRÃ BREITANHA	2.244.417	7.611.370	16.261.251
ALEMANHA	21.753.868	11.744.883	Não figura entre os cinco principais importadores

(“Boletim do Conselho Federal do Comércio Exterior”)

o norte do Paraná e seu desenvolvimento nos últimos cinco anos

(Conclusão) Assim, quem percorre o imenso estirão que se desdobra desde Londrina até o Pirapó, o Bandeirantes, o Três Bocas, o Jacutinga e o Vermelho, pequenos cursos d'água que fertilizam o solo em várias direções, ficará admirado diante de caminhos capazes de permitir uma média horária de 75 quilômetros.

Foi esta trama de comunicações fáceis para o pioneiro audaz, que no recesso das florestas constrói o Brasil futuro, que levou a fama da Companhia de Terras Norte do Paraná a todos os recantos do planeta, fazendo com que entre os compradores de suas terras figurem 31 nacionalidades, sendo quase metade constituída de brasileiros.

Graças a esta rede de comunicações, Londrina é, atualmente, o maior centro rodoviário do Paraná, bastando dizer que dali partem e entram diariamente 32 jardineiras.

atraídos pela fama da região, ali procuraram fixar-se. Onze mil habitantes, mil e trezentos automóveis, serrarias importantes, dotadas dos maquinismos mais modernos como a S. I. A. M. ginásios, hospitais, casas de saúde, grande cinema, tudo afinal que reclama a civilização, dá a Londrina um ar de importância fora do comum.

Bastam estes algarismos referentes à renda municipal, para atestar sua prosperidade:

1935	127.739\$900
1936	260.772\$100
1937	453.845\$800
1938	769.693\$800
1939	985.487\$200
1940	1.200.000\$000

Embora seja o centro mais importante da zona, Londrina não absorve completamente a vitalidade das terras da Companhia. Em igual progresso seguem-lhe os passos Ibioporã, Nova Dantzig, Rolândia, Arapongas, Apucarana e Lovat. A primeira e bem assim as três últimas não existiam há cinco anos, sendo que Nova Dantzig e Rolândia neste período se desenvolveram de modo sensível. Em Rolândia, acha-se situada a grande fábrica de madeira

Origem da Importação do Brasil

— 12 —

Oswaldo BENJAMIN DE AZEVEDO

AGORA A AMERICA

Deixando a Europa, passemos à América do Norte, onde se encontram os mercados que suprirão a falta dos europeus.

Canadá — Apesar de hoje predominar a indústria, nas atividades canadenses, possui o Canadá uma bem desenvolvida agricultura. Sua economia rural é baseada nos cereais e na pecuária, que dá lugar a uma importante indústria de laticínios.

E' o país que possui uma das maiores florestas do mundo, riqueza natural de que muito se aproveitaram os canadenses.

O comércio de peles é dos mais importantes, exportando-as, principalmente, para a Grã-Bretanha e para os Estados Unidos. As raposas, os castores, as martas, os muskrats, os minks, os racoon, são os animais cujas peles são as preferidas.

A pesca é, também, bastante explorada, sendo o capital empregado em navios de pesca, estoques, etc., avaliado em cerca de 100 mil contos, em 1938.

Salmon, lagosta, bacalhau, arenque, sardinhas, truta, had-dock, etc., foram os pescados em maior quantidade, em 1938. Muitos desses peixes são enlatados e exportados.

Seu sub-solo, ainda em parte desconhecido, é rico em cobre, ouro, chumbo, níquel, prata, zinco, carvão, petróleo, etc.

Rico também, em quedas d'água, aproveita sua grande potencial hidráulico no desenvolvimento de suas indústrias, em que os capitais ingleses e americanos são empregados em importâncias vultosas. As maiores indústrias do Canadá são as que empregam, como matéria prima, produtos vegetais, vindo a seguir as que se utilizam de produtos animais. As indústrias têxteis, as de madeira, as de papel, as de ferro, as de produtos químicos, são das mais importantes.

Seu comércio com os Estados Unidos e com a Grã-Bretanha é muito importante, pois recebe cerca de 80 por cento de sua importação, daquelas procedências, e expedia com esses destinos 75 por cento de sua exportação.

Importava “gêneros alimentícios” (15 por cento), “Máquinas” (19 por cento), “Combustíveis” (14 por cento), “Têxteis” (11 por cento), “Metais” (11 por cento), e exportava “Gêneros Alimentícios” (29 por cento), “Papel” (15 por cento), “Metais” (18 por cento), “Madeiras” (8 por cento), “Máquinas” (6 por cento).

Era, entre os maiores fornecedores do Brasil, o segundo nos suprimentos de “Produtos de Matadouro e Caça”; e o terceiro nos de “Outros Metais de uso corrente”, “Matérias Primas”; o 4.º nos fornecimentos de “farinhas” e de “Outras Máquinas e Aparelhos não classificados”; o 5.º nos suprimentos

de “Veículos e Acessórios”. Ocupava o 7.º lugar entre os maiores fornecedores dos produtos classificados como “Manufaturas”.

Terra Nova — A pesca é a principal atividade dos habitantes de Terra Nova, Bacalhau, salmão, halibut, lagosta, representam a maior parte dos pescados.

O Brasil é um grande comprador de bacalhau dessa procedência, embora tenha decrescido a importação nos últimos anos.

Em 1937, o valor do bacalhau de Terra Nova, importado pelo Brasil, atingiu a 24.200 contos.

Em 1938, foi de 17.460 contos e, em 1939, baixou para 16.590 contos. Nos dois primeiros anos nossa importação de Terra Nova foi exclusivamente de bacalhau, mas, em 1939, recebemos diversos artigos manufaturados, no valor de 9 contos.

ESTADOS UNIDOS

Os Estados Unidos são os maiores compradores de produtos brasileiros, e também os maiores fornecedores de produtos de importação.

Lutando com a falta de mão de obra, empregaram os Estados Unidos máquinas das mais modernas no desenvolvimento de sua agricultura, e métodos aperfeiçoados e racionais na pecuária. São dos maiores produtores do mundo de cereais, como milho, aveia, trigo, centeio,

e também de algodão, linho, batata, beterraba e cana de açúcar.

São os maiores produtores do mundo de leite, manteiga e queijo, e figuram entre os maiores possuidores de rebanhos de gado vacum, suíno, equino, de ovinos e muar.

E' enorme sua riqueza florestal, bem explorada pelos norte-americanos, que empregam seus recursos em larga escala em suas próprias indústrias. Figuram em primeiro lugar como produtores de “Pasta de Madeira”, seguidos pelo Canadá.

Seu sub-solo é, talvez o mais rico do mundo, pela abundância e variedade de minerais que encerra. São os Estados Unidos os maiores produtores de petróleo, de carvão de pedra, de chumbo, de cobre, de ferro, de zinco, de enxofre, de Feldspato, de gesso, de mica, e ocupam o 2.º lugar na produção de prata, de tungstênio e de asfalto, e o 4.º lugar na produção de ouro.

Assim, possuindo vantagens naturais, tais como combustíveis, potencial hidráulico, abundância e variedades de matérias primas vegetais e minerais, aliados ao espírito empreendedor de seus habitantes, puderam os Estados Unidos desenvolver seu parque industrial, o maior do mundo atualmente.

Tomando por base o valor da produção de cada grupo, as indústrias de “Gêneros Alimentícios” veem em primeiro lugar, seguidas pelas “Têxteis”, de “Ferro e Aço”, de “Máquinas”, de “Produtos Químicos”, de “Transportes”, de “Papel”, de “Produtos de Petróleo e de Carvão”, etc.

(Continua)

Higidez da Mentalidade Nacional

A atitude com que a opinião pública recebeu a divulgação dos resultados preliminares do recenseamento, acompanhados de esclarecimentos do presidente da Comissão Censitária Nacional, não é uma simples demonstração de sensatez, mas, pela sua feição ativa, uma consequência da higidez da mentalidade nacional.

Acceptar como legítimas conclusões que na verdade o são é exprimir merecida confiança no empreendimento que já foi

proclamado como a melhor prova da capacidade da atual geração para a tarefa da reorganização do país. Mas aceitar essas conclusões, mesmo nos seus aspectos desfavoráveis ou até considerados decepcionantes, e apreciá-las com elevação de vistas, aplaudindo a franqueza com que foram reveladas, é mostrar preferência pela verdade, decisão de ver as coisas com objetividade, sem a mais remota pretensão de torcer a realidade brasileira agora profundamente investigada.

Jornalistas e escritores que comentam a exposição e os dados numéricos da direção central do Serviço Nacional de Recenseamento ferem a mesma tecla: que a probidade científica e a sinceridade deram as mãos à competência técnica.

Ficou a todas as vistas evidenciado que o Governo da República confiou ao Instituto Brasileiro de Geografia e Estatística a realização da nossa maior operação censitária sem restrições menos legítimas e, sobretudo, sem visar a outro fim que não o de certificar-se das exatas condições existenciais do país e proporcionar aos brasileiros o conhecimento dessas condições, escrupulosamente investigadas e fielmente divulgadas.

O recenseamento — ninguém poderá dizer o contrário — não foi inspirado por outros objetivos além dos de ordem estatística e, portanto, exclusivamente para estudo dos problemas gerais e orientação das providências de interesse coletivo.

Uma nova mentalidade reinante entre nós permitiu que o Governo assim o dispusesse, com os mais estimuladores aplausos da opinião esclarecida do país.

No instante dramático em que o mundo está ardendo na maior fogueira da história e que milhões de criaturas não sabem como mitigar a fome e a miséria, conforta o espírito saber que nas terras livres do Brasil, uma alvorada de esperança está convertendo o sertão bruto numa verdadeira terra de promissão.

(F I M)

Produção e comércio de Ferro Gusa

Tem causado crescente desenvolvimento a produção e o comércio do ferro gusa no Brasil. No primeiro trimestre de 1941, a produção foi de 44.020 toneladas (16.330 contos) sendo que, em igual período de 1940, não havia ultrapassado de 37.632 toneladas (14.033 contos). O coeficiente de aumento registado em 1941 é de 17 por cento em relação ao período correspondente a 1940 e de 27,2 por cento em relação a 1939.

O progresso da produção do ferro gusa cresce na razão inversa do respectivo custo. Assim é que, tendo sido de réis 378\$234 o custo da tonelada, em

1939, já em 1940 baixou para 372\$900, descendo mais ainda no decorrer deste ano, em que não foi além de 370\$967.

No período Janeiro-Março de 1941 a exportação brasileira de ferro gusa atingiu 8.378 toneladas, no valor de 4.271 contos ou sejam, mais 2.844 toneladas e 1.755 contos do que nos mesmos meses de 1940, quando a exportação somou tão somente 5.534 toneladas e 2.516 contos de réis.

Quanto ao preço-médio, a bordo, da tonelada de ferro gusa exportado, verificou-se uma sensível elevação, passando de 454\$644, em 1940, para 569\$787, em 1941.

Troca de açúcar por petróleo

Ao que noticia a imprensa de Buenos Aires, foi entabulado entre a Argentina e a Bolívia um acordo comercial, baseado no sistema de trocas de mercadorias excedentes das exportações de cada um desses países.

Dadas as crescentes dificuldades do tráfego marítimo para os portos europeus, o intercâmbio sul-americano está assumindo cada vez maiores proporções. A troca de produtos entre os países continentais foi, assim, considerada como a melhor providência capaz de pôr cobro à crise econômica decorrente da guerra. Nesse sentido, o acordo argentino-boliviano, que vem de ser assinado, baseia-se na troca

de 200.000 sacas de açúcar da Argentina por uma certa quantidade de petróleo da Bolívia. Deste modo, ficará a Bolívia suprida de açúcar em condições vantajosas, acontecendo o mesmo à Argentina, quanto ao petróleo.

A propósito deste último produto, seria interessante ao Brasil um acordo semelhante com a Bolívia, que poderia abastecer-se de muitas mercadorias nossas em troca daquele precioso combustível, que, segundo tudo indica, os Estados Unidos (nossos atuais fornecedores) retirarão de sua pauta de exportação, afim de atender às necessidades da defesa nacional.

Colaborações

O “Brasil Asahi” não se responsabiliza por conceitos e opiniões emitidos em artigos assinados. Também não devolve originais, mesmo quando não publicados